

令和4年度 学校評価シート

学校名：専修学校クラーク高等学院天王寺校

目指す学校像	生徒一人ひとりの可能性をみつけ、才能を開花させる学校
育てたい生徒像	1. 特化型コース・専攻で「好き」や「得意」を追求する生徒 2. 自ら考え、自ら学ぶ力を身につけ、何事にも主体的に行動できる生徒 3. 夢を見つけ、それに挑戦し、達成を目指す生徒

本年度の重点目標	1 特色重視の特化型教育で生徒一人ひとりの才能を開花させる
	2 企業・地域連携授業による非認知能力の向上
	3 希望進路の決定と大学進学率の向上

達成度	A	十分に達成した（80%以上）
	B	概ね達成した（60%以上）
	C	あまり十分でない（40%以上）
	D	不十分である（40%未満）

- ※ 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目（年度達成目標）を設定する。
- ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。
- ※ 学校評価委員会は、高等学校教諭、関係企業代表取締役、卒業生代表で実施した。
- ※ 評価項目に対応した具体的方策と方策の評価指標を設定する。
- ※ 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を受ける。

自己評価					評価		
年度目標					年度評価（令和5年6月1日現在）		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	現状> 特化型教育としてコース制を開設して2年目となりカリキュラムの確立と実績作りが必要である。また中学校時代に不登校を経験した生徒も多く在籍し、基礎学力の定着が必要である。	実施している授業の定期的なチェックと指導内容の見直し	・管理職による授業見学と定期的な授業アンケートの実施	・定期的な実施ができたか。 ・適切なフィードバックができたか。	・定期的に実施でき、改善を図ることができた。	A	専門科目の授業実施にあたり教育環境の充実を図ったことで、外部コンテスト等での成果を出すことができ始めている。 出席不良生徒については、ICTの活用等により、個別のサポートの強化をするとともに、入学前教育にも力を入れ、基礎学力の定着を図る。
	課題> ・コース授業の指導内容の精査 ・生徒の学力や習熟度の把握 ・進路への意識づくり	個々の成長を可視化できる仕組みの構築	・外部コンテストへの参加 ・基礎学力チェックテストの実施	・外部コンテストにおいて、入賞することができたか。 ・基礎学力（中学校分野）の定着が図れたか。	・クエストカップ全国大会に出場した。 ・English Central Award 2023で優勝した。 ・Change Makers Fes に出場した。 ・出席不良の生徒について、基礎学力の定着が充分には図れなかった。	B	
		専門授業の実施に必要な施設・設備を整備	・年初及び各学期ごとにコース長会議の実施 ・必要なハード面についてのヒアリングの実施	・規定通りに実施でき、且つ、必要な機材等の整備ができたか。	・eスポーツコースではプログラミング学習用のノートPCを購入した。また校内のネット環境改善のためネットワーク設備を整備した。	A	
2	現状> 探究学習として、机上のアイデアで終わらず、実際のモノ（イベント）を創り出す学びができつつあるが、外部との連携や発信が弱い。	地域・企業・大学等の外部関係機関との連携の強化	・地域・企業・大学等の講演会や、連携講座の開講やイベントの共催	・外部の方の講演会やイベント等が開催できたか。 ・参加者の満足度は向上したか。	・企業連携により商品（知育玩具）を開発した。 ・第二回SDGsマルシェを開催し、来場者からも高い評価をいただいた。	A	各コースにおいて、外部企業や大学と連携した学びを勧めることができた。オンラインでの講義・講演会等については、内容をしっかりと精査し、対面での開催かオンラインかを決定する。SNS等の活用による学びの発信については、特定コースが特定の時期にはできていたが、継続的にできてはいなかった。次年度に向けては、各コース別に委員を設けるなどし活性化を図る。
	課題> ・企業連携（連携企業の選定） ・実施内容の外部発信	オンラインを活用した新しい繋がり方の創出	オンラインによる起業家やクリエイター等の講義や、連携校との合同イベントの開催	・オンラインでの講義・講演会等が開催できたか。 ・参加者の満足度は向上したか。	・コースごとにオンラインでの講義を実施できた。 ・対話的なオンライン講義ができておらず、満足度は高くはなかった。	B	
		生徒の活躍をリアルタイムに配信できる仕組み（ICTの活用）の構築	ICTツールやオンラインを活用した情報配信や学校便りの作成	・情報配信について、タイムリーにできたか。 ・生徒の活動をアピールできたか。	・スタディプラスを活用したタイムリーな配信ができた。 ・SNSを利用した情報発信については、質の向上と、更新頻度・時期が課題である。	B	
3	現状> 進学・就職を問わず、生徒たちの第一志望の進路先への決定が学校としての最重要課題である。その中で、本来、大学進学を目指す生徒が、安易に専門学校を選択するケースもあり、一人ひとりに応じた進路指導をより進めていく必要がある。	適切な進路選択の機会の提供	・進路ガイダンスの実施 ・外部進学説明会への参加 ・保護者対象の進路イベントの開催	・進路ガイダンス及び外部進学説明会への参加が適切に実施されたか。	・外部の説明会への参加など、適切に実施できた。 ・保護者単独ではなく、保護者も参加可能な進路イベントとして実施したが、参加数が少なかった。	B	3学年に進級時に希望進路先が定まっている体制を作ることが必要である。コロナ禍の3年間において、大学・専門学校見学や職場訪問など、進路と向きあう時間が不足していた。 今後は1年次から担任等による面談や進路指導を行い、2年次では授業外で小論文講座を実施するなど、様々な教員が関わりを持つことで、生徒への意識も向上させていく。
		定期的な進路希望の把握	・進路希望調査（4月・7月・10月・2月） ・二者・三者面談（5月・3月）	・生徒の進路希望の状況をタイムリーに把握できているか。	・進路希望調査は適切に実施出来た。 ・進路未定者の面談は実施できていたが、最後まで方向性が定まらない生徒がいた。 ・進路決定率が、74.3%と例年を大きく下回った。	C	
	課題> ・1年次からの進路指導の徹底 ・多様な入試制度に対応した対策の徹底 ・大学進学希望者への放課後補講やサポー	個々に応じた丁寧な進路サポート	・大学進学希望者の放課後及び長期休み期間の補講授業の開講 ・進路選択における第二・第三志望校選定までの進路指導	・計画に基づき、放課後講座等が適切に実施されたか。 ・志望校を複数校設定することにより浪人の防止ができたか。	・放課後補講等は実施したが、参加者数が少なかった。 ・大学進学率36.5%と前年を大きく下回った。 ・浪人が6名と前年を上回った。	C	

学校関係者評価
実施日 令和5年10月4日
学校関係者からの意見・要望・評価等
・環境を整えて、特化型のコースについても定着されつつあると思う。 ・今年度、コース制3年目のため、初めての受験生がいる。授業内容として、一般受験者に対応しているものか、確認・見直しも必要である。 ・外部コンテストに参加して実績が出ていることは、生徒にとっていい機会であり、生徒の自信に繋がっている。 ・在学中に、授業や学校行事等様々な場面で、発表する機会が多く、その経験が大学生活等でも活かされるので、継続して欲しい。
・探究授業では、日頃関わりが薄い生徒とコミュニケーションが取れたり、他の学校では経験できなかったりしたので、生徒の自信に繋がっている。 ・不登校生が増加している現状の中、専門機関と繋がれないことが学校の問題の一因としてあげられる。そういった専門機関との繋がりも検討してほしい。 ・外部発信について、もっと生徒に発信させてもいいのではないかと。ただし、ネットリテラシーの授業を行うなど、しっかりと学ぶ場を設ける必要がある。 ・商品開発をする際、マーケティングの授業は行われたのか。産学連携の商品は売れにくいことが多い。せっかくやるなら売れる商品を開発していくことが大事である。 ・イベント実施時の集客など、直前での広報ではもったいないので、もう少し長い期間をかけてスケジュールを立てた方がいい。
・在学中は、同じ志を持つ友人がいて、学習に対するモチベーションが維持できている。 ・経済的な理由で進学を諦める生徒もいるのではないかと。もっと保護者会で進学にかかる費用面についての説明が必要である。 ・保護者は生徒と合同だと参加しづらい面がある。保護者単独での進路説明会の開催が必要である。 ・大学進学だけが正解ではないが、まだ世の中としては学歴社会の傾向が強いので、ある程度の実績は必要ではないかと。 ・大学生活をイメージできるよう、日常的に大学生と交流（学習指導や生活サポートなど）ができる体制があればいいのではないかと。